

宮城県色麻町

持続可能な未来をつくる、色麻のいま。

2024.02.01

Vol.

17

February, 2024

第 17 号

隔月 1 日発行

# しかま支え合い 情報誌



特集

## 高齢者が輝ける社会に

高齢者が輝けば

若い人に希望を与えられる

あらゆる世代が輝ける



かっぱクラブしかまの新イベント「歌声フェスタ」の様子。

午後三時過ぎ、下校する子どもたちの声が聞こえてくる頃、「さよなら。気を付けて」と、子どもたちに声がけしているのは、上郷地区の高橋克明さん（七一）。克明さんは、学校ボランティアとして、下校時の子ども見守り活動をしています。「『さよなら』って一言声がけしているんだけど、続けているとね、声かけた時の表情で、今日は楽しいことがあったのかな、嫌なことがあったのかな、とか、

高齢者に有意義な  
子どもとのふれあい

何となく分かるようになってくるんです」。

克明さんは、見守り活動の他、ふれあい食堂にもボランティアとして参加しています。「子どもたちと一緒に食卓を囲むだけで、気持ち明るくなってきます。ふれあい食堂には、高齢者の方も参加してほしいと思っています」と、話していました。



↑見守り活動の際、子どもを気遣う克明さん。

無理はせず  
できることから

克明さんは現在、色麻町老人クラブ連合会の会長を務めています。色麻町老人クラブ連合会は、令和四年に設立六十周年を迎え、新たな愛称も「かっぱクラブしかま」に決まりました。節目の年となりました。「学校ボランティアもふれあい食堂も、かっぱクラブしかまの代表のつもりで参加しています。これからのかっぱクラブしかまは、会員の親睦を深める活動だけでなく、地

域貢献にも取り組んでいこうと考えています。様々なボランティア活動は、地域貢献の一環として行っています」と話します。

また、会員増強にも取り組んでいます。「より多くの高齢者の方に参加していただくために、行事の種類を増やして、参加できる行事の選択肢の幅を広げたいと思っています。ただ、行事は増やしても負担は増えないように心がけています。無理はせず、できることからやるのがポイントだと話します。



↓かっぱクラブしかま教養講座での様子。



SDGs 目標 3

3 すべての人に  
健康と福祉を

## 高齢者には輝いてほしい 若い世代に希望を与えるために

克明さんがかっぱクラブ  
ブシかまの活動に熱心に

す」と、熱く語って  
いました。

取り組むのは、高齢者の  
方々には輝いていてほし  
いという思いがあるから  
です。「高齢者が輝けない  
国は、はつきり言ってダ  
メな国だと思っていま  
す。高齢者が元気に楽し  
く過ごしている姿を、若  
い世代の人に見せること  
で、若い人が長生きする  
希望を持てるようになり  
ます。希望を持つことが  
できれば、日々の暮らし  
もいきいきしてきます。

かっぱクラブし  
かまは、歌声フェス  
タや他町の老人ク  
ラブとの交流会な  
ど、新しい行事を  
実施しています。行事  
に参加された会員  
の方々は、思い出を  
共有することによ  
って絆が強くなり、  
チームワークもよ  
くなりそうです。それが  
やがて地域力とな  
っていききます。

克明さんの行

動力の根底には、  
地域への熱い想  
いがありました。



会報誌「ちりれんげ」での  
CLC 池田さんとの対談の様子。



大河原町老連の皆さんとの交流会の様子。



かっぱクラブしかま会員研修会での記念写真。

11 住み続けられる  
まちづくりを。

SDGs 目標 11

## Information

### 〔生活支援体制整備事業とは〕

## あなたにとってのお宝はなんですか？

皆さんの活動・地域の活動情報をお寄せください！  
生活支援コーディネーターの菅原が伺います(^-^)/

しかま支え合い情報誌は、色麻町生活支援体制整備事業の一環として発行されています。生活支援体制整備事業という名前は聞き馴染みがない方も多いかと思えます。

この事業は、介護保険制度の事業の一つです。介護保険制度という  
と、ヘルパー等の訪問介護や、デイサービス等の通所介護をイメージさ  
れる方が多いと思いますが、生活支援体制整備事業は生活支援・介護予  
防の基盤整備のための事業です。「介護予防の特効薬は社会参加であ  
る」という考えのもと、元気な高齢者はもちろん、支援や介護が必要に  
なっても自分らしく地域の中で暮らし続けられ、社会参加ができる地  
域を、地域住民が主体になってつくっていくことを目的としています。

この目的を達成するためには、お住いの地域での居場所・集える場所  
の確保・創出が必要です。そんな場所やつながりを私たちは「お宝」と  
呼んでいます。支え合い情報誌は、この町にあるお宝を探して紹介して  
いく情報誌です。皆さんにとってのお宝の情報をぜひお寄せください。  
生活支援体制整備事業は、地域のお宝を応援してまいります！



色麻町社会福祉協議会  
色麻町生活支援コーディネーター  
すが わら かず すぎ  
菅 原 一 杉

※色麻町社会福祉協議会では、生活支援体制整備事業の一つ、生活支援コーディネーター事業を町より受託しています。

# しかま支え合い掲示板

## 支え合いの祭典 第3回お宝発表会

令和5年12月4日(月)、色麻町生活支援体制整備事業「第3回お宝発表会」が、色麻町保健福祉センターで開催されました。今回発表されたのは、「志津地区の地域づくり」「色麻町レクリエーション協会」「南山での挑戦」「新耕会」の4タイトル。それぞれの地域での取組を発表していただきました。また、恒例のNPO法人全国コミュニティライフサポートセンター理事長の池田昌弘さんによる基調講演をいただきました。池田さんの講演を楽しみにしている方もおり、お宝発表会の楽しみの一つになっています。池田さんの他、同法人の木村利浩さんを審査員にお迎えし、発表された方々に、様々なアドバイスや激励の言葉を送っていました。皆さんの活動の糧になったことと思います。



発表会の様子



参加者全員で記念写真

## 韓国教職員訪問団 加美農高訪問



令和6年1月16日(火)、初等中等教職員国際交流事業の一環として、韓国教職員訪問団の皆さんが、宮城県加美農業高等学校(以下、加美農高)を訪れました。訪問団の皆さんは、加美農高の生徒や職員の皆さんと飾り巻き寿司づくりを体験しました。細かい作業に悪戦苦闘していましたが、輪切りにした時に綺麗な花の模様ができると、歓声が上がっていました。

巻き寿司体験の後は、加美農高の生徒の皆さんによる、餅つきパフォーマンスを鑑賞しました。韓国には餅はあるものの、杵と臼でつく慣習はないとのことで、訪問団の皆さんはとても楽しそうにしていました。生徒の皆さんもこの日を楽しみにしていたとのことで、歓声や拍手が起ると嬉しそうにしていました。

## しかま支え合い情報誌 vol.17

発行：社会福祉法人色麻町社会福祉協議会

〒981-4122 宮城県加美郡色麻町四竈字杉成 27-2

TEL：0229-65-2260 FAX：0229-66-1713

E-mail：shikama.shakyo@vesta.ocn.ne.jp

URL：http://www.shakyo.or.jp/hp/287/

生活支援体制整備事業は、介護保険制度の地域支援事業の一つです。  
しかま支え合い情報誌は、色麻町生活支援体制整備事業の一環として発行しています。